

私が毎日思う事

鳥取市立福部未来学園 7年生 坪内 莉愛奈

みなさんの通学路には「信号のない横断歩道」はありますか。私が毎日通る通学路には信号のない横断歩道があります。そこで、私が七年間毎日のようになやみ続けていることがあります。それは、信号のない横断歩道で待っている時にどの車も止まってくれません。普通は歩行者が優先的に渡る権利があります。なのに、大人はそれを知らないのか誰もとまってくれることはありません。ですがたまに止まってくれる人がいます。私はなぜか止まってくれる人が親切な人だと思ってしまいます。止まるのが普通なのに。時には3分以上も横断歩道を渡るために待つこともあります。私は車が止まってくれるのを待っているときに毎日思うことがあります。それは、「警察が見ていたらどの車も止まるんだろうな。」と毎日思ってしまいます。大人でもずるい事をする人がいるのです。私はそれに、毎日のように、怒りと不安でいっぱいになります。しかも、毎日のように止まってくれる人は、ほとんど同じ人。それ以外の人は、仕方なく止まってあげているという感じが歩行者に伝わってきます。ここで、運転している方々に私から言いたいことがあります。信号のない横断歩道を通るとき、「仕方なく止まってあげよう。」という気持ちで止まっている方はいませんか。この「止まってあげよう。」という気持ちではなく、「止まるのが普通」という気持ちに直してみてもうどうですか。私たち学生、歩行者は信号のない横断歩道でこのような事を思っている人が多いと思います。いままで、「止まる」という言葉、行動を意識していなかった方もいると思います。ですが、この作文を一人でも多くの人に読んでもらい、横断歩道で歩行者優先を意識してもらいたいです。そして、歩行者のみなさんは、止まって下さった方々に止まるのが普通ですが、「ありがとう。」という感謝の気持ちを込めて、渡った後は、笑顔でていねいにおじぎをしましょう。そうすることで、歩行者と運転している方が気持ちの良い一日を過ごすことができるでしょう。このようなちょっとした出来事で多くの笑顔が増えるのです。なので、みなさん今から自分の行動を見直してはどうですか。運転者は「止まる」の気持ち、歩行者は「感謝」の気持ち。この二方がどう思うかによって、相手の気持ちは変わってくると思います。

私はこれから意識していきたいことがあります。それは、おじぎの仕方です。私は渡っている途中におじぎをしています。これでは相手にちゃんとした気持ちが伝わらないと思います。なので、これからは、渡り切った後に笑顔で気持ちを込めてお礼をしていきます。